

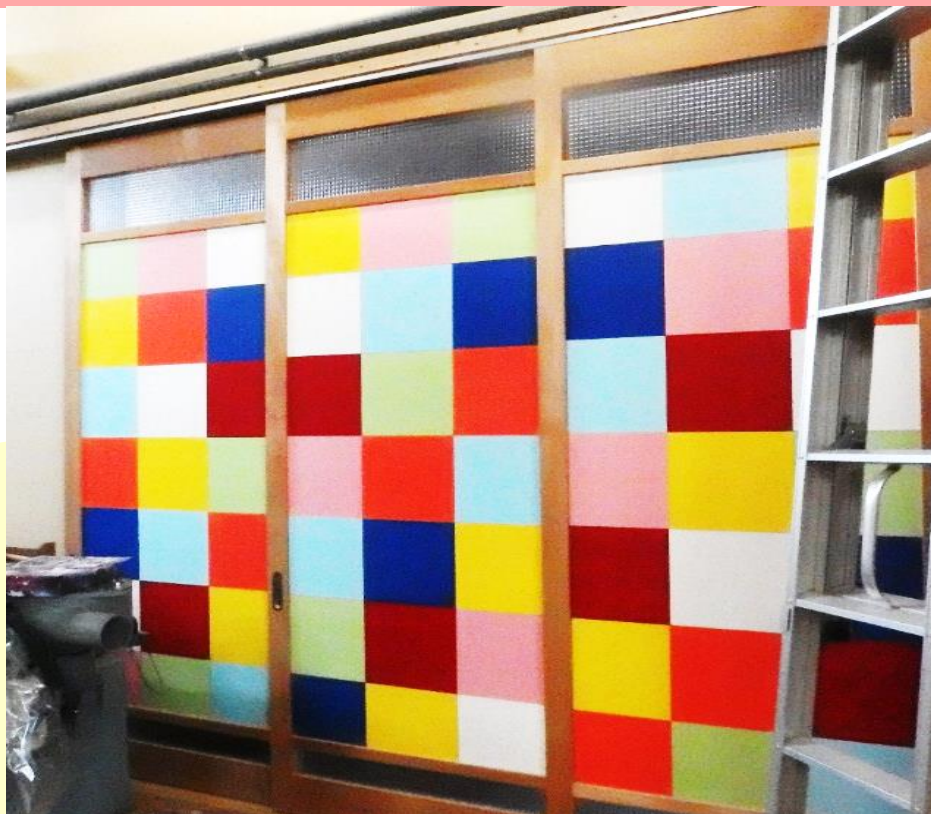
26年度補正

ものづくり
技術

佐藤建具・ふすま店



長尺ベニア合板カット機械導入による作業効率化・短納期事業



大型建具

洋風住宅人気に伴い大型建具の需要が伸びていた

近年では洋風住宅が多く建築され、洋風の大型建具に製造がシフトしつつあるが、部分的に和を入れるなど和モダンな家の受注も増え、和の良さが再認識されつつある。当社でも和洋折衷な建具を製造したいと考えていたが、大型の建具を製造できる設備を保有していなかった。そのため、同業者の設備を借りて加工しなくてはならず、移動、搬入・搬出など余計な時間と労力を割かなくてはならない状況にあった。



設備を借りるために移動を要していた

こんな会社です



佐藤隆洋

苦しい時代を乗り越えて

当社は明治26年に佐賀で創業した3代続く建具店です。私が幼かった頃は競争が激しく、苦しい時期もあり、クラスのほぼ全員が持っていたローラースケートも買ってもらえないこともありました。しかし、頂いた仕事一つ一つに対峙に対応したこと、また全国でも認められる技術力を身につけたことで、お客様に指名していただける建具屋に成長できました。ものづくり補助金で設備を導入させていただき、対応力もアピールすることができるようになりました。後を継ぎたいと言っている息子に胸を張って引き継げるよう、今後も挑戦を続けながら日本の伝統工芸を守ってまいります。

パネルソーの導入で、大型建具製造の内製化が実現した



パネルソー

大型建具用の材料である長尺ベニア合板の加工を内製化するため、パネルソーを導入し生産プロセスの改善を図った。加工にかかる余計な時間が削減できたことで生産効率も向上し、また設備借用にかかる経費もかからなくなったことから、利益率の向上にもつながった。納期の短縮も可能となったので、競争力も強化され、多様化するニーズに対応できる体制を整えることができた。

製造可能数量・売上ともに設備導入以前の約1.5倍に上昇

元々、受注量が多く常に納期に追われていたので、受注件数はそれほど変わらないが、大型建具製造の全ての工程が内製化されたことで、生産効率が上がり、受注できる1件1件のボリュームが大きくなった。設備導入以前の1.5倍程度の量を製造できるようになっている。製造量が増えたこと、また建具の高さが高くなり単価が上がったことで売上も5割程度増えるなど、事業は順調に進捗している。



製造風景

住む人をワクワクさせる建具で、どんな時代が来ても乗り越えていく



組子を施した建具

建築業界では、今後コロナの影響で家を建てる人が減ってくると予想している。現時点で、当社では受注に困るような状況にはないが、そのような将来に備え、幅のある商品展開をしていきたいと考えていたところ、令和元年度補正ものづくり補助金で組子の部材の製造を機械化することができた。生産効率が向上し、組子に取り組める時間が増えたので、組子をあしらった大型建具の製造に更に力を入れていきたい。また、オリジナルのアイデアを施した一工夫ある建具も好評なので、今後も住む人を思い、住む人をワクワクさせる建具作りで事業を発展させていきたい。

info

佐藤建具・ふすま店
代表者 佐藤 彰

事業実施場所
〒899-4104
鹿児島県志布志市志布志町安楽2133-4-5
TEL 099-472-1527
FAX 099-472-1592

設立 明治26年10月
従業員数 1名
業種 家具・装備品製造業



社屋